

「鳴子ダム水源地域ビジョン策定委員会 第3回 策定委員会」について

平成17年5月31日(火) ホテルオニコウベで、鳴子ダム水源地域ビジョン策定委員会(第3回)が、策定委員21名の参加の下で開催されました。

1. 第3回策定委員会の概要

(1) 策定委員会

- 1) 日 時：平成17年5月31日(火) 10:00～13:00
- 2) 場 所：ホテルオニコウベ地階会議室
- 3) 参加者：21名(7名欠席)

(2) 現地見学

- 1) 日 時：平成17年5月31日(火) 13:40～16:20
- 2) コース：ホテルオニコウベ ～ キツネ森 ～ やまが旬の市 ～ 鬼首中学校 ～ 鬼首幹集落センター ～ 荒雄湖畔公園 ～ 鳴子ダム(堤内) ～ ホテル荒雄湖畔公園～鳴子ダムまでダム管理所の巡視船で移動しました。(5人)
- 3) 参加者：10名

第3回策定委員会の経過と様子は次のとおりです。

開会后、事務局より、第2回策定委員会後の経過報告があり、第2回策定委員会の意見に基づき、鳴子ダム水源地域ビジョンの方向性について説明を行い、これに基づいた議論が行われました。

今後は、専門委員会を設置し、第1回専門委員会を、7月下旬に行う予定です。

2. 議事の概要(各委員の発言の要旨)

委員のみなさまからご発言いただいたご意見を整理すると、以下のとおりです。

地域活動の状況

協力・協賛(鳴子町、やまが旬の市、鳴子ダム管理所)のもと、フィッシングジャンボリー・イン・オニコウベを開催できた。イベントは大人から子供まで好評(イワナつかみ取り、湖水クルージング)で、参加者にゴミ拾いもしてもらった。

地域活動者の計画

スローライフ「夏編」を計画。温泉街、森、川をステージにイベントを計画。ダム付近でのコンサート開催も検討している。

潜在する資源をうまくいかす

スキーに行く(スキー主体)と温泉につかりスキーにも行ける(温泉主体)など来訪者のニーズをうまくつかむ。

ダムも地域活動も風土も資源であり、これらをうまく見せ、今の取り組みをふくらませていく。

あるがままの姿を磨く。

地域活動の課題

リーダーに地域活動が委ねられている。

行動費の捻出（参加料からの運営）

企画立案、プログラム展開、広報など、さまざま分野での連携のしくみがやや低い。

インストラクターなど人材がなかなか集まらない。

地域の方々が地域活動に参加していく仕組みや体制をつくる。

地域情報の共有、地域からの情報発信・地域への情報発信

インターネット各サイト間のリンクにより情報を共有して発信していく。

インストラクターなどを人材バンクに登録する。

「水源地域ビジョン」というポータルサイトを作り総合的に情報を共有し発信する。

テレビ、新聞などさまざまなメディアでの情報発信する。

地域の方々にうまく情報を伝達する。

インターネットや各種情報媒体に頼らない人と人の交流も大事である。

“鳴子ビート”による「よさこい」などでの宣伝も連携につながっていく。

来訪者へのサービス提供

ツアーデスクや、コンシェルジュによるガイド案内。駅など主要地点からの情報発信する（構えがあるだけでは機能が低い）。

旅館・ホテルとグリーンツーリズム活動の相互連携が必要。

グリーンツーリズムのサービス提供と地域経済（地域がうるおう）の仕組みを検討。ボランティア活動と事業活動の識別。来訪者へのサービスの維持が必要。

商品化という引き出しを一杯持って、お客さんに約束したサービスを提供する。

地域のウリをつくろう

食材を活用して鳴子ならではのブランドを展開。品質を保証する。

旅館と農業（地元産物の食材化）などにより両者の関係をつくる。来訪者に地元食材を提供する。

心あたたまるおもてなしでリピーターをつかまえる。

温泉のブランドではなく地域のイメージをウリにしていく。

鳴子ダム水源地域ビジョンの目標や展開（交流や連携）

水、川、ダム、水源地域での生活など、本来の水源地域のあり方もビジョンに取り込んでいく。ビジョンづくりは、鳴子町がコアとなり、鳴子ダムと江合川流域とのつながりで、合併を契機に盛りたてていく。

合併を契機に観光地間の連携も必要である。

鳴子町内の地域活動や事業活動をうまく連携させ、将来の地域像を見すえ、鳴子町、大崎市、下流域と広がりを持たせるビジョンづくりが必要である。

来訪者との交流するスタイルを観光的な視点でとらえ、ものごとに取り組んでいく。

水源地域の自治や社会活動の維持。高齢化や過疎化への対応が必要である。

鬼首 古川の交流（買い物なども含む）は多いが古川 鬼首の交流は少ないので、相互の交流をつくれないうるか。

鳴子ダム水源地域ビジョンづくりを新聞やテレビ番組で報道してもらい、広くPRしていく。

水源地域（鳴子町）は地域活動や資源が豊富なことによりビジョンの方向性はみえてきたが、中下流とのかかわりや、つながりを示していくことが必要である。

ダムがなかった時の状況を下流地域に説明する場を計画しており、そのような活動を行いながらビジョンづくりを下流から応援していきたい。

水源地域の原風景の維持

国道沿いの標識や看板などのサインを統一（色彩・形状など）する。

川やダムのことを知る環境づくり（川に親しむなど）を行う。

今後の委員会運営

鳴子町在住の委員を中心に専門委員会を設置し、地域活動や、連携交流の方向性を検討していく。



第3回策定委員会のようす
(開会)



第3回策定委員会のようす
(高橋委員)



第3回策定委員会のようす
(吉川委員)



第3回策定委員会のようす



第3回策定委員会のようす
(向田委員)



第3回策定委員会のようす
(田中、毛利、古澤委員)



第3回策定委員会のようす



第3回策定委員会のようす
(高橋宣安、高橋一壽、遊佐委員)



第3回策定委員会のようす
(志賀委員)



第3回策定委員会のようす
(遊佐、高橋英理子委員)



第3回策定委員会のようす
(古澤、齋藤、堀江委員)



第3回策定委員会のようす
(高橋義雄、田中、毛利、古澤委員)



現地見学のようす
(やまが旬の市)



現地見学のようす
(きつね森: 鬼首地区)



現地見学のようす
(車窓)



現地見学のようす
(鬼首基幹集落センター)



現地見学のようす
(荒雄湖畔公園での乗船)



現地見学のようす
(鳴子ダムサイトでの下船)



現地見学のようす
(鳴子ダムサイト)



現地見学のようす
(ダム堤体のインクラインへ)



現地見学のようす
(放流バルブ)